

令和 5 年度 墨田区立吾嬬第二中学校学校 経営評価

令和 6 年 3 月 9 日

学 校 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、正しい判断のできる生徒 (自ら進んで学習に取り組み、よく考え、判断して行動することができる生徒を育てる。)</li> <li>・思いやりのある生徒 (人と協力し、何事にも一生懸命になり、人間関係を上手に築ける生徒を育てる。)</li> <li>・心身ともに健康な生徒 (感染予防等自らの健康管理ができ、毎日の体力向上に取り組む生徒を育てる。)</li> </ul>
目 指 す 学 校 像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力の定着と向上を目指す学校 (読み解く力と発信する力の育成、及び深い学びの実践)</li> <li>○豊かな心と健康な身体を育む学校 (心の教育・体力向上及び健康教育の充実)</li> <li>○保護者や地域の信頼に応える学校 (学校マネジメントを生かし開かれた学校づくりの推進)</li> </ul>
目 指 す 子 供 像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶ意志をもち、「読み解く力」「発信する力」を身に付け主体的に励む生徒 (知)</li> <li>○規範意識を身に付け、人権を尊重し、交流活動をとおして伝え合い高め合う心豊かな生徒 (徳)</li> <li>○心身ともに健康で体力向上に努め、困難なことにも粘り強く最後までやりぬく生徒 (体)</li> </ul>
目 指 す 教 師 像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供が好きで教えることを誇りとし、一人一人の生徒に目を向けて慈しみ育てる教師 (慈愛)</li> <li>○日々学び続け高い見識と豊富な知識を有し、自らの指導力を高めようと努力する教師 (研鑽)</li> <li>○教育公務員としての自覚と責任の上に、自己の資質向上のための研修に励む教師 (授業力)</li> </ul>

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況 (評価項目の○印は成果目標です。)

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。 (○生徒の授業評価で「分かりやすい」の解答を 85%以上。 → (77%) であった。 ○効果的なタブレット活用を実践し授業の変革を行う。)	B	ねらいの明確化は達成できた。 新しいプリの活用などタブレットの有効活用には課題が残る。教科に応じた教員の主体的な研修も必要と考える。 ○ねらいを必ず黒板に書き最後に達成できたかを教師・生徒が確認する。 ○タブレットに頼りすぎないようにする。ふり返りシートやドリル問題などを、繰り返し実施。インプット・アウトプットを確実にを行う。オンラインでの教材を適切に活用。 ○SST・学習支援員を活用する。	B	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。 (○通常級との連携、生徒交流。 ○校内特別支援教育推進委員会を週 1 回実施。 ○特別支援教室の円滑な運営と特別支援教育推進委員会を中心に、個別の指導計画を作成し情報共有する。)	B	AS ルームは稼働率 100%と高く効果がある。より組織的にしていく。 家庭訪問が登校に向けて成果を上げている。内容的に他に示すことは難しいが、個別の対応がきめ細やかにできた。継続する。 ○委員会の内容を、校務 PC で共有する。 AS ルームの情報共有を行う。効果あり。 ○家庭訪問を続ける予定だが、時代の変化も考慮。支援員も活用する。 ○指導計画を共有する。 保護者との連絡をより密にしていく。 外部関係機関との連携を図る。 第三者評価にて高評価。	A	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ○保護者アンケート「職業に関する指導や	C	より、地域に密着したキャリア教育を計画する。職場体験だけでなく、起業についての教育など幅広く取り上げる。 事業所とのコラボレーションで、SDGs に取り組ませる。 ○1 年生 2 年生 3 年生の系統を大事にする。	B	A

様式 4

	<p>進路学習の取組」で肯定的評価 86%以上。 → (50%) であった。 ○目的に応じ効果的な外部人材を 6 名以上活用し生徒の満足度を 80%以上にする。良好</p>		<p>○外部人材の活用を引き続き実施。人権学習を広範囲にする。キャリアパスポートや職場体験など周知説明に努める。</p>		
	<p>学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。 ○OJTによる授業研究を、年間3回実施。ICT公開授業の実施。教師全員の本校プロシージャの徹底。 ○指導教諭等の授業参観5名以上とし全員研修を受講。 ○年10回以上の学力向上委員会とOJTをとおして組織的に取り組む。</p>	B	<p>指導と評価の一体化については教員の研修が進んだ。しかし継続が必要である。定期考査、業者テストでも好成绩が残せるよう、授業改善や放課後学習に努める。研究授業を実施することで、教員が互いに学ぶ機会がふえた。今後はICTのスキルアップを計画的に入れる。 ○生徒達が「できた」と感じられる授業。また、「できた」の持続。紙と鉛筆を大切に。指導と評価の一体化を推進する。 ○授業力向上の上で、実際に学力向上につながっているかの検証を行う。業者テストや定期考査。各レベルでの向上を図る。 ○研究授業により互いに学ぶ。生徒への適切な声かけを行う。厳しさの中に温かさのある指導を行う。</p>	B	A
	<p>家庭学習の確立に向けた取組 ○ICT環境を整え、学び方を教え、学ぶ意志を持たせる。○家庭学習の平均時間が全学年において160分以上。 ○定期考査の取組の意識化。 ○家庭での読書習慣を付けさせ、月間不読生徒(読まない生徒)の数をゼロにする。 → (100%達成)</p>	C	<p>主体的な学習、家庭学習の時間、 が少ないのが問題であるので、強制ではない形での家庭学習を位置付けさせ、学習の個性化を図る。 ○毎日家庭学習。自主性を伸ばす。自分に必要であると認識させる。教員が確認。保護者の方も意識していただくよう周知。 ○引き続き3週間前から取り組ませる。 ○読書推進。学校では読書指導。家庭では娯楽の側面も大事にする。スマホに依存しないようにする。 ○検定受検の励行。準備のための学習指導。学年としての課題の充実を図る。</p>	B	A
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>		<p>新しいアプリの活用などタブレットの有効活用には課題が残るとあるが、今後の活用において新しい物を使っていく予定はあるのか。ICT機器の活用能力の向上は、とても大切なので、積極的に取り組んでほしい。 不登校とヤングケアラーの関係性はあるのか。実態はどうか。外部人材については今後も積極的に活用してほしい。</p>		
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指	<p>学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。 ○保護者アンケート</p>	C	<p>問題に対してスピードとチームワークを大切にしながら対応することができた。家庭との連携を密にし、常に安心感のある指導を心がける。必要に応じて活用する。</p>	A	A

様式 4

導 等	「ルールを守って生活」の項目で肯定的評価83%以上。→(82%)であった。 ○不登校出現率を7%未満にする。→(8%)であった。		○スピード&チームワークを大事にする。チームワークは教員だけでなく職員及び保護者・地域と。 ○粘り強くて丁寧な聞き取り、家庭との連携する。 ○法律相談の活用を行う。		
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んだか。 ○保護者アンケートで「健康で明るく楽しい学校生活」の肯定的評価83%以上。→(84.5%)であった。	B	掲示物を工夫をする。 生徒に様々なことを企画させ、考えさせた上で、取り組ませる。挨拶も次第によくなった。  ○環境整備に力を入れる。「花から笑顔を」 ○挨拶は心を開く第一歩 明るい挨拶、吾婦二中 教員による率先垂範 を推進する。	A	A
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組 ○避難訓練・安全指導は毎月必ず実施。保健指導の充実。 ○毎月の安全指導日以外で、安全に関する指導を年間3回以上実施。一声指導の実施。	B	計画的組織的に取り組んでいる。 教員の安全プログラム研修を行う。SNSトラブルについて、研修をし、保護者にも伝える。 ○定期的な安全教育を引き続き行う。  ○安全プログラムを活用し声かけをする。 対面での指導。生身の人間同士の交流を大切に。SNS・タブレット依存とならないように。	A	A
	人権尊重教育の推進・発信 ○人権プログラムやESDを活用し生徒による人権啓発実践を年3回以上取り組む。 →(100%達成) ○人権トラブルの未解決をゼロにする。 →(100%達成)	B	同和教育を中心として様々な課題に取り組んだ。今回は子どもの権利について良い学びとなった。さらに浸透するようにしていきたい。八広小や八広幼稚園をはじめとして連携ができた。来年は英語数学理科の出前授業を行う。 ○十分な研修を行っている。生徒一人一人に浸透するように根気強く指導。 ○学力向上・生徒関係・情報交換について行いたい。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	新しい校則は、生徒の声も反映されているし、時代に即したな内容になっているので素晴らしい。継続的に見直しを行ってほしい。 人権学習についての評価が3になっているが、4でも良いのではないか。文部科学大臣優秀教職員表彰は、先生方の頑張りを表している。			
項 目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学 校 の 管 理 運 営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。 ○教育課程の届出以上の授業時数を確保し、100%以上の完全実施とする。→(100%) ○学校関係者評価でB以上。	B	アウトプットの徹底を引き続き行う。小テストの実施。タブレットでわかったつもりにならないようにさせる。 保護者から学校に対する関心や協力をいただけるように、安心感を増やす。PRを増やす。  ○明確な指示による学校経営。主幹教諭の学校経営参画を促す。 ○校長室だよりを発行する。	B	A

様式 4

	<p>学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。</p> <p>○調査結果を反映させ授業改善作成。達成率において各教科1ポイント以上向上。</p> <p>○保護者アンケートの「安心して通わせられる学校」の項目で肯定評価93%以上。 →(83%)であった。</p> <p>○残業時間を月平均38時間以内とする。→(50%の教員が達成)</p>	B	<p>生徒が主体的に校舎に対する愛着を感じ大事にするような場面を設定する。</p> <p>○ふり返しシートの徹底。アウトプット(小テストなど)の強化 「分かった」の喜び。「できない」をなくす。 「できた」の持続。粘り強く指導。できることの喜び楽しさから学ぶ意志をもたせる。</p> <p>○保護者アンケートの分析。理解や協力をいただけるように努める。</p>	B	A
	<p>学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。</p> <p>○保護者アンケートで施設に関する項目の肯定的評価86%以上。 →(91%)</p>	B	<p>ホームページを充実させる。分かりやすくする。さらに心に届き、学校のことがよく分かる学校だよりや学年だよりを作成する。</p> <p>○整っている施設の維持管理に努める。 生徒への環境整備の指導を行う。学校図書館は二中の2本の支柱の一つ(もう一つは心の支柱=人権尊重)電子書籍の活用</p>	A	A
	<p>災害に備えた施設・備蓄品の整備</p> <p>○整備状況を毎月確認し、学校関係者評価でAとする。</p>	B	<p>整備状況の点検を組織的に続ける。</p> <p>○整備状況を毎月確認する。</p>	B	A
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>		<p>残業時間38時間以内の教員が50%となっている。残りの先生方の実態はどうか。引き続き働き方改革に向けた取組をお願いします。</p>		
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	<p>学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。</p> <p>○ホームページの更新を増やし、学校連絡の徹底を図る。</p> <p>○保護者アンケートで「たより、文書が分かりやすい」の肯定的評価85%以上。→(82%)</p>	B	<p>FAST や学年ごとの講演会などでの外部人材活用を続ける。</p> <p>感染対策についてはスキルとして身についた。必要に応じて継続する。</p> <p>○ホームページ更新回数増やしています。(コロナ関連以外でも)わかりやすいホームページの内容にする。</p> <p>○学校だより、学年だより引き続き発行する。</p>	B	A
	<p>学校は保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。</p> <p>○各学年で最低1回は外部人材を活用。</p> <p>○PTA活動や地域の活動に教員が最低2回は参加し情報交換を行う。→年1回</p>	B	<p>引き続き地域と連携して行う。地域の行事に参加するように促す。</p> <p>○今年度は人権集会の名前変更。FAST. より生徒の主体性を重視する。報告を学校だより学年だよりで行った。</p> <p>○感染予防で大きく制限されたが、参加可能な会議等には参加するようにする。</p>	A	A

様式 4

	地域と連携した防災教育の推進 ○東京防災を活用と地域連携の防災教育の計画的実施。年2回以上実施。→(100%)	A	来年度も地域連携のもと、防災教育や対策を行う。 ○防災拠点会議を区の示すマニュアルに則って実施。 ○地域防災訓練に参加。今後も区の防災課とも相談をしながらさらにいろいろな災害を想定して準備する。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	HPの充実、PTAも考えている。ぜひ協力して取り組んでいきたい。 地域の防災訓練に積極的に参加していただいている。生徒の意識も高まっていると思うので、今後も継続して参加してほしい。			

2 令和5年度学校評価のまとめ

<p>1 【数字で見る吾孺二中】保護者アンケート集計の結果の分析と改善について</p> <p>○昨年も保護者の回答率が67%と、以前のマークシート式の解答用紙の解答用紙より少なかった。が、今年度回収の仕方に工夫を加えたにも関わらず、55%とさらに低くなった。インターネットでの回答の方が便利という御意見をいただいているが、来年度は回収方法を変更して回収率を8割にもどす。</p> <p>○各項目「分からない・判断できない」という回答が昨年同様に多かった。コロナ禍の対応が解除されたので、来年度はさらに積極的に地域や保護者の方に御来校いただき、直接参観の機会を増やすとともに、ホームページやお便り、COCOO配信による通知など、これまで以上に広報活動に力を入れる。生徒の力も借りながら、吾孺第二中学校のポスターを作成するなど、主体的にしかも楽しい学校PRに努めたい。</p> <p>○各項目の中で、特に高く評価していただいた項目は以下の項目である。</p> <p>設問 2 : 学校は校内の環境美化に努めている。肯定的評価91%</p> <p>設問 1 1 : 教職員は、電話をかけた時や学校に訪問した時、丁寧に対応している。肯定的評価89%</p> <p>※肯定的評価とは、「当てはまる」「やや当てはまる」の合計である。</p> <p>設問 2 については、日頃より生徒と教職員が丁寧に清掃活動を行ってきたことを評価されたと考える。また、インフルエンザやコロナウイルス感染症の対策も考えながら取り組んできた。「環境は人をつくる」という言葉があるように、健全育成に、よりよい生活環境は欠かせない。今後も丁寧に取り組んでいく。</p> <p>設問 1 1 今年度も体調不良での欠席連絡や友人関係、学習についての相談等、保護者の方からの電話や相談が多数あった。これらの対応においては、保護者の方に御心配をおかけしないように、教職員一体となって丁寧に対応してきたことを高く評価していただいたのだと考える。次年度は、100%を目指して取り組んでいく。</p> <p>○学校で一番大切な「学習」に関する項目は以下の項目である。</p> <p>設問 1 3 : 教員は、教え方などを工夫して分かりやすい授業に努めている。</p>
---

## 様式 4

肯定的評価 49% 分からない・判断できない 35%

設問 15：教員は、生徒の質問などに丁寧に対応している。

肯定的評価 59% 分からない・判断できない 30%

設問 16：生徒は、自ら学ぶ努力をして授業に取り組んでいる。

肯定的評価 55% 分からない・判断できない 13%

設問 17：生徒は、きちんと家庭学習をしている。

肯定的評価 52% 否定的評価 44%

生徒の興味や関心を高めるために電子黒板や iPad を活用した授業に積極的に取り組んでいる。Kahoot などの学習アプリを取り入れるなど、楽しく分かりやすく学べるように努めた。また、ワークシートを作成したり、放課後に補充教室を開いたりして、一人一人の生徒に対応している。しかし、活用していることや工夫していることが、保護者の皆様にうまく伝わっていないことがアンケート結果から分かる。今後も教職員が一体となって指導方法の改善を続け、「分かる」授業を目指していくとともに、その様子をホームページや学校便りなどでお伝えしていく。さらに、アンケート結果から家庭学習が不十分であることも見えた。学力向上は学校が担うものですが、家庭学習は欠かせない。本校では、毎日宿題を課すようにはしているが、量が少なくすぐに終わってしまう場合もある。学校では量の調整を心がけます。御家庭でも主体的にプラスαの学習課題について家庭に協力を仰ぎ、親子での話し合いや、取組についてのお声かけなどをお願いする。

課題のあった項目は、以下の通りです。

設問 8：全体として、二中は我が子を安心して通わせることのできる学校である。

肯定的評価 84% 否定的評価 14%

設問 10：教職員は、子どもの悩みや相談に応じてくれる。

肯定的評価 63% 否定的評価 19%

この2つの項目については、肯定的評価 100%を目指したいと考える。すべての教育活動の基本は、「安心・安全」である。一年間の教育活動を教職員で振り返り、すべての保護者がお子様を安心して通わせることができるよう、取り組んでいく。また、困っていることがあれば、いつでも相談できる体制をつくる。これについて、管理職はもちろんのこと教員だけでなく、養護教諭、スクールカウンセラー、学校支援員の全員でより組織的に対応する。

### 2 いただいた御意見からの考察

○新しいアプリの活用などタブレットの有効活用には課題が残るとあるが、今後の活用において新しい物を導入するとよい。ICT機器の活用能力の向上は、とても大切なので、積極的に取り組んでほしい。→予算をとりつつ、できるところから導入する。来年度も引き続きプログラミング教育を推進する。

○不登校とヤングケアラーの関係性はあるのか。実態はどうなのか。外部人材については今後も積極的に活用してほしい。→問題がゼロではないので、校内組織だけでなく外部の専門機関との連携をとりながら、生徒の安心・安全に努めていく。

#### 様式 4

○新しい校則は、生徒の声も反映されているし、時代に即した内容になっているので素晴らしい。継続的に見直しを行ってほしい。→昨年度に引き続き生徒自らが考え、発信する形で校則について取り組ませる。このような活動を通して、生徒が自分事として捉える態度を育成したい。

○人権学習についての評価が3になっているが、4でも良いのではないか。文部科学大臣優秀教職員表彰は、先生方の頑張りを表している。→表彰にふさわしい実践を今後も続けていく。

○残業時間38時間以内の教員が50%となっている。残りの先生方の実態はどうか。引き続き働き方改革に向けた取組をお願いします。→過労死ラインと言われる80時間を越える教員もいる。これは深刻な問題であり、早急に取り組まねばならないと考えている。また、このことで地域行事への参加や協力が完全になくなることは、よい状況ではないと考える。振替休日等の生徒も利用しながら、来年度、数値目標を掲げ、週の半ばでの状況を見える化するなどして取り組んでいく。

○HPの充実、PTAも考えている。ぜひ協力して取り組んでいきたい。→学校の後方活動、PRについては現役の生徒・保護者だけでなく、広く行う必要があると感じている。来年度の学校経営の重点課題として組織を再編して取り組む。その際に単に教員だけで行うのではなく、生徒の主体性を伸ばしながら実践していく。

○地域の防災訓練に積極的に参加していただいている。生徒の意識も高まっていると思うので、今後も継続して参加してほしい。→今後も連携しながら取り組む所存である。

○生活指導や教員に対する御指摘について

教員の対応について厳しい御意見が複数あった。引き続き、質の高い授業を進めるとともに、教育DXに取り組み、生徒理解や保護者対応について学び、慈愛と研鑽を忘れずに引き続き日々精進する。学習指導においても、しっかりと連携を深める。電話対応については再度研修を行い、家庭との連携がスムーズに行えるようにする。

○不登校対策も大きな課題である。学習指導以上に個別の対応が求められるので、ASルームを活用して対応を継続する。

○部活動についてはガイドラインに基づき行い、外部指導員についても適切な配置を行う。また、地域移行をバドミントン部において進める。

○体操着は今年度から、制服は令和6年度から変更する。新しい体操着や制服によって、コロナ禍を経て、学校がよい方向へと改革を進めていることを示す一助になればと考える。

3 【来年度の吾孀二中】 経営評価に基づいたビジョン

1 重点事項

- 1 学力向上、体力向上、気力向上  
明確な目標をもたせる。
- 2 人権尊重教育推進校としての新たな一歩  
同和教育を中心に据え、自他共に人権を大切にして差別を許さない。  
自分の思いを発信する力強さとレジリエンスを身に付けさせる。
- 3 誰もが知っている吾孀二中  
広報活動に力を入れ、保護者アンケートの回答率9割を目指す。

2 目指す学校像についての来年度の課題

- ① 確かな学力の定着と向上をめざす学校（基礎・基本の定着と徹底）
- ② 豊かな心と健康な身体を育む学校
- ③ 保護者や地域住民の信頼に応える学校（広報活動の充実）
- ④ 教職員が組織的に動き、働きやすい学校
- ⑤ 人権教育の取組の中で読解力・発信力を大事にする学校
- ⑥ 教育 DX の推進に取り組み、ICT、生成 AI の活用などチャレンジする学校

3 目指す生徒像についての来年度の課題

- ① 学ぶ意志をもち、授業や読書を通して、基礎・基本の習得を大切にして励む生徒（知）
- ② 校則について自分事として捉え規範意識を身に付けるとともに互いに尊重し高め合う生徒（徳）
- ③ 心身ともに健康で、困難なことにも粘り強く取り組み、レジリエンスを身に付けた生徒（体）

4 目指す教師像についての来年度の課題

- ① 子どもが好きで、教えることを誇りとし、生徒に目を向けて教育活動を展開する教師（慈愛）  
寄り添う教師
- ② 高い識見と豊富な知識を有し、生徒の人間性を高めるべく教育活動に取り組む教師（研鑽）  
理想を掲げる教師
- ③ 教育公務員としての自覚と責任の上に、自己の資質の向上のための研修に励む教師（指導力）  
学び続ける教師